

檜山地区 教育研究大会（上ノ国大会）

- 1 目 的 先行きが不透明な中においても、教育のさらなる充実、発展と新たな課題の
解明に向け、各学校で積み上げた実践を交流し、互いに磨き合うとともに、
学習指導要領の実施に係る的確な対応等、学校教育を取り巻く今日的な諸課
題にも積極的に目を向け、校長としての職能向上を図る。
- 2 主 催 檜山校長会
- 3 後 援 北海道教育庁檜山教育局・上ノ国町・檜山管内教育委員会連絡協議会
檜山管内各町教育委員会
- 4 期 日 令和7年10月3日（金）・4日（土）
- 5 会 場 上ノ国町（上ノ国町 総合福祉センター ジョイ・じょぐら）
- 6 参加者 檜山校長会員他（43名）
- 7 日 程

【1日目】 9時30分 開会式

10時15分 講 話（檜山教育局長）

11時15分 分科会

（第1「学校経営」第2「教育課題」）

15時00分 道小提言発表

15時30分 全体会（道小・道中役員による教育情勢報告等）

【2日目】 9時00分 学校別部会（今日的教育課題に係る協議）

（1）小学校部会 （・道小等からの情報提供 ・令和11年度
道小釧路大会に向けて・学校間交流 ・その他）

（2）中学校部会 （・道中等からの情報提供 ・道徳教育
・部活動 ・学校間交流・その他）

11時10分 閉会式

8 学校経営上の課題別分科会

2つの学校経営上の課題別提言による研究協議を分科会形式で実施した。

○第1分科会 学校経営研究課題

「ICTを核とした組織マネジメントによる学校力向上と校長の役割と指導性」

提言者：厚沢部町立館小学校長 大 滝 英 樹

・厚沢部町は先進的なICT教育環境を整備し、校長のファシリテーター的役割が重視さ
れている。

・教職員アンケートでは、経営ビジョンの理解度は高いが、具体的行動への落とし込
みに課題がある。

・ICTは業務効率化に貢献しているが、サポート体制の不十分さが指摘された。

・生成AIへの関心は高いが、アプリの使いこなしに不安がある。

・校長はICT活用を支える体制づくりと教職員の参画促進が求められる。

・研究は3か年計画で進められ、授業改善やICT推進委員会の充実が図られた。

・キーワードは「経営ビジョンの共有」「ICT活用の深化」「働き方改革」。

・実践交流を通じて、心理的安全性や協働的校務改革が進展。

・成果として、情報共有の質向上や教職員の意欲向上が見られた。

・課題は、創造的活動への時間活用とウェルビーイングの指標化。

・校長は地域の強みを活かし、未来をひらく学校づくりの推進役となる。

○第2分科会 教育課題

「学校の危機管理体制の再構築と、安全教育・防災教育の充実」

提言者：今金町立種川小学校長 北 川 美 香

・今金町では災害リスクの高い地域特性を踏まえ、危機管理体制と防災教育の再構築
を進めた。

・避難訓練や地域歩きなど、体験を重視した安全教育を実施し、児童生徒の判断力を

育成。

- ・町内3校の危機管理マニュアルを比較・改善しICTを活用した情報発信体制も整備。
- ・地域機関と連携した避難所運営訓練や講習会を通じ、実践的な防災教育を展開。
- ・成果として、教職員の危機意識向上と防災教育の組織的推進が挙げられた。
- ・課題は登下校時の安全確保、特別支援児対応、情報の正確性確保等多岐にわたる。
- ・校長のリーダーシップのもと地域と連携した教育課程マネジメントが求められる。
- ・AAR（振り返りと改善）を含む継続的な改善サイクルの構築が重要。
- ・協議では熊出没や大雨時の対応など、実際の危機対応事例が多数共有された。
- ・助言では「考える防災教育」や「Win-Winの関係構築」の重要性が強調された。
- ・校長は「子どもにとって最善」を基軸に、地域とともに危機に強い学校づくりを進めることが期待される。

9 全道小提言発表内容の交流

9月に開催された第68回北海道小学校長会研究大会根室・中標津大会で発表した提言について全体で交流。小学校部会と中学校部会が互いに研究している内容を知る機会としている。

10 道小・道中教育情勢報告

今年度半期における国及び道教委の教育行政情報について、道小・道中役員による説明・報告を通して、今後の教育の動向等についての理解・認識を深めた。

北海道小学校長会事務局次長	山田健一氏
北海道中学校長会情報部幹事	宮田真基氏
北海道小学校長会情報部幹事	高梨美奈子氏

主な説明情報

- (1) 道小・道中学校長会の活動紹介（総会・研修会・理事研修会・全道会長研ほか）
- (2) 教育情報に関わって（中学生による市販薬の乱用問題、次期学習指導要領の方向性、教員採用を巡る状況、学校数の減少と多様化、教員の私物端末持ち込み禁止問題、不登校・児童生徒の自殺対策、教職員の未配置問題等）
- (3) 質問事項に関わって（役職定年、離島加配、働き方改革ほか全8項目）

11 学校別部会

(1) 小学校部会

①全体会

②グループ別情報交流

- ・多様化する人権課題として、外国籍児童や障がい者への対応が現場で課題となっている。
- ・地道な日常教育の積み重ねが人権教育に繋がるとの認識が共有された。
- ・道徳教育では「考え議論する道徳」の実践が進む一方、少人数校では議論の深まりに課題がある。
- ・礼儀・思いやり・粘り強さを重点目標に掲げ、教職員の意識改革を図る。
- ・地域と連携した「ふるさと学習」が檜山の強みとして位置づけられている。
- ・若手教員の地域連携への消極性が課題として挙げられた。
- ・ねらいを持った教育課程編成とCS活用が重要視される。

(2) 中学校部会

①道中からの情報提供

②道徳教育プロジェクト：令和9年度の発表に向け、次年度提言完成予定。

③部活動の状況について

- ・バレーボール部の動き：合同部活動の限界とクラブチーム結成の課題。
- ・中体連関係：檜山中体連駅伝大会の継続議論など。

④防災安全教室：1日防災学校の取組が多くなっている。

⑤私物端末（スマホ）持込禁止の交流：ほとんどの町は道教委に準じている。